



## 4- 体 操 女 子 専 門 部

副部長・委員長（八王子学園八王子中学高等学校）

小田川 恵 一

### 今年度の課題

◇ 都総体＝インターハイ予選の開催危機の打破＝全国的に見ても東京都だけ、正式な体操競技大会を開催できる器具・環境が皆無で、『東京都代表選手を選出出来ない』可能性が歴然と存在する。

であるので、全国一加盟校の多い東京都の体操専門部として、長年に渡り窮状を訴えているが、耳を貸さない行政並びに都教委に対し、都内最低一か所への体操器具の配備を強く要請する。

### 次年度以降の長期的な課題

◇ 都総体を含む都大会運営の危機となっている現状の打破＝体操競技の器具を、都内最低一か所への配備の実現とその手段。

◇ 専門部常任委員の養成＝体操競技経験者の教員採用の要請

令和元年度の行事も、関係部署のご支援や多くの先生方のご協力により何とか終了しました。

その『何とか』という表現には、前述した体操器具の無さから、この紙面での訴えだけではどうにもならず、毎回のように書かざるを得ないのが正直なところである。

さて、今年度の全国総体2019では、体操競技で大智学園高等学校が団体総合優勝に輝き、平成22年以来9年ぶりの快挙を成し遂げることが出来た。また、個人種目別で、山田千遥（大智学園）が、跳馬・ゆかで優勝に輝くことが出来た。

また新体操団体競技では、駒場学園高等学校が出場し、第10位と健闘し、個人で出場したなかざわれな宮岡柚季（駒場学園）も個人総合第11位と健闘した。

その後10月まつ初旬に、ドイツのシュツットガルトで行われた、第49回世界体操競技選手権大会では、男子団体総合で前年と同様に第3位に入賞した。また、女子では、我が体操女子専門部出身の村上茉愛選手は、怪我で出場できなかったが、同じく我が専門部出身の畠田瞳・杉原愛子選手も活躍した。以上のように各選手が大変健闘し『体操日本』をしっかりと定着させていると思われる。今後も女子の村上・畠田・杉原選手とともに次代を担う選手が生まれてくれることを期待してわが専門部の運営も行ってゆきたいと思っている。

いよいよ、2020東京オリンピックです。我が体操専門部出身の日本代表選手たち、是非日の丸を掲ぐべく自身の力を120%発揮できるよう祈っている。

### 加盟状況

今年度の加盟校は58校でした。総計では前年度よりも6校減り、前年度未加盟の学校で再加盟も含む新規加盟が4校あり、前年度と比較すると結局のところ9校が加盟をしなかったこととなります。この背景には、都立高校等で、顧問教諭が学校を移動転勤した場合、ほとんどの学校で、危険という理由から廃部に追い込まれているということが推察できます。また反対に、4校の新規加盟の理由は学校外の社会体育のクラブチームの選手がかなり増えてきていることが伺えます。この傾向は年々増えていくだろうと思われます。そのような状況を受け全国の高体連として、2005年度からは引率・監督についてのルールが改正され施行されています。学校体育の中で活動している選手と、外部で活動している選手という違いはあるにしろ、同じ高校生の大会参加の機会を狭めてしまうのはどうかということで、ルール改正がなされ施行されたが、本来の高校体育という考え方からは、少し外れているのではないかという意見もあり、多少複雑な思いがあるように思われる。

### 令和元年度の行事と成績

- ① 専門部総会 4月14日（日）  
於 成城高等学校
- ② 総合体育大会総合開会式 4月20日（土）  
於 三輪田学園講堂
- ③ 東京都総合体育大会  
兼全国高校総体東京都予選会
- ◎体操競技の部 6月16（日）  
於 日本女子体育大学

全国総体へは東京都から1校及び個人2名がこの大会により選出されることになっている。

### 〈団体総合〉

1位	大智学園高等学校	169.000
2位	都立駒場高等学校	145.500
3位	藤村女子高等学校	134.150
4位	日体大桜華高等学校	128.850
5位	富士見高等学校	97.250
6位	錦城高等学校	91.000

〈個人総合〉

1位	山田 千遥	大智学園	57.000
2位	栗嶋 姫子	大智学園	56.350
3位	徳田知沙子	大智学園	54.950
4位	長島 琴菜	大智学園	52.950
5位	櫛原 亜子	大智学園	52.550
6位	安田 美樹	都立駒場	50.150

◎新体操の部 6月15日(土)

於 エスフォルタアリーナ八王子

新体操の全国高校総体では、団体競技も個人競技も、年によって手具が決められており、個人競技は2種目を実施している。その中から団体1校・個人1名が、全国高校総体(インターハイ)に出場できるという大変狭き門の予選も兼ねて行われている。

〈団体競技〉

1位	駒場学園高等学校	22.700
2位	藤村女子高等学校	21.350
3位	潤徳女子高等学校	21.050
4位	日女体大附二階堂高等学校	19.650
5位	文京学院大学女子高等学校	13.050
6位	玉川聖学院高等学校	11.600

〈個人総合〉

1位	宮岡 柚季	駒場学園	31.050
2位	朽木ユリア	安田学園	30.550
3位	中澤 怜那	東亜学園	29.700
4位	永坂 柚奈	駒場学園	28.450
5位	鶴鷹くるみ	クラーク国際	28.350
6位	齊藤 成緒	国士館	27.550

④ 関東大会都予選会 4月29日(月)

於 国士館大学多摩キャンパス

この大会の結果で上位3校及び個人4名が関東大会へ選出された。

〈団体総合〉

1位	大智学園高等学校	168.750
2位	都立駒場高等学校	144.500
3位	藤村女子高等学校	140.450
4位	日体大桜華高等学校	134.750
5位	錦城高等学校	109.900
6位	都立府中西高等学校	103.200

〈個人総合〉

1位	栗嶋 姫子	大智学園	56.700
2位	徳田知沙子	大智学園	55.700
3位	山田 千遥	大智学園	54.600
4位	長島 琴菜	大智学園	54.450
5位	岩崎 夏芽	大智学園	52.850
6位	高橋 舞雪	日体大荏原	52.250

◎新体操の部

新体操の全国高校総体での手具を基に、団体競技も個人競技も行われ、その中から団体2チーム(校)個人5名が、関東大会に出場できるという大変狭き門になっている。

5月5日(日)

於 駒場学園高等学校

〈団体競技〉

1位	駒場学園高等学校	21.750
2位	藤村女子高等学校	20.850
3位	潤徳女子高等学校	18.950
4位	日女体大附二階堂高等学校	18.800
5位	文教学院大女子高等学校	13.800
6位	三田国際高等学校	9.850

〈個人総合〉

1位	中澤 怜那	東亜学園	30.950
2位	宮岡 柚季	駒場学園	30.300
3位	齊藤 成緒	国士館	29.150
4位	朽木ユリア	安田学園	29.000
5位	佐竹 日和	藤村女子	28.700
6位	鶴鷹くるみ	クラーク国際	27.650

⑤ 春季大会

◎体操競技の部

体操競技は、正式には跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆかという器具を使って競技するものであるが、東京都では、跳馬・段違い平行棒を備えている学校は非常に少なく、ゆかフロアーに至っては1校のみといったところである。(全国的に見れば大抵の学校は跳馬・段違い平行棒は必要ということから備えている)そのような状況の中で、いかに体操を普及させるかということ、そして、高校から体操を始める選手でも、ある程度挑戦できるようにしたいということから、東京都女子体操専門部では、長年にわたり学年別大会(2部大会)を行っている。その大会も含め他道府県では、ほとんどが公立体育館で競技会を行えているが、東京都は、体操器具の完備した大会の出来る公立体育館は皆無であって、2部大会を含むすべての大会器具をリースによって運営するわけにはいかないが、関東大会などの公式の大会を行うためにすべての器具をリースすると、400万円弱は掛かるということ、ただ、2016年に東京都で開催した関東大会では、関東大会より大きな大会と重なったため、すべての器具のリースはできず、千葉県からゆかフロアーを借用したため、そのトラック代も嵩み、500万円を超えてしまったこともありここに書き添えておく。

○学年別3年生大会 5月3日(金)

於 有明スポーツセンター体育館

〈団体総合〉

1位	日体大桜華高等学校	142.700
2位	錦城高等学校	105.300
3位	都立国立高等学校	104.100
4位	都立西高等学校	98.450
5位	実践女子高等学校	96.300
6位	都立小山台高等学校	87.200

〈個人総合〉

1位	川本 朋佳	日体大桜華	52.750
2位	辻内 慈音	品川女子学院	50.750
3位	射手矢光子	日体大桜華	49.550
4位	新明 彩香	都立駒場	44.550
5位	窪田 千春	錦城	44.450
6位	島田真佑子	都立駒場	43.400

○学年別2年生大会 6月29日(土)

於 有明スポーツセンター体育館

〈団体総合〉

1位	都立府中西高等学校	128.450
2位	藤村女子高等学校	127.050
3位	富士見高等学校	117.300
4位	錦城高等学校	108.700
5位	都立国立高等学校	104.950
6位	豊島岡女子高等学校	96.900

〈個人総合〉

1位	佐藤 優和	都立府中西	47.800
2位	田村 七紗	錦城	46.700
2位	椎名 菜月	藤村女子	44.600
4位	本多 真優	藤村女子	42.650
5位	塚田 颯子	富士見	42.550
6位	中川智香子	都立国立	41.950

◎新体操の部

○春季新人戦大会 5月5日(日)

於 駒場学園高等学校

既述した、関東大会予選の同期日・同会場で春季の新人戦も行われている。

⑥ 種目別大会

◎体操競技の部 8月24日(土)

於 有明スポーツセンター体育館

毎年夏期休暇中の終盤に、4種目の種目別大会を実施している。

◎新体操の部

毎年1月末に次年度に採用される手具も含んだ4種目を種目別を実施し、種目ごとの順位と学校ごとに4種目選抜メンバーをエントリーしての学校対抗競技を行っている。

⑦ 秋季大会

◎体操競技の部

○学年別1年生大会 10月14日(月)

於 都立府中西高等学校

〈団体総合〉

1位	都立駒場高等学校	136.100
2位	品川女子学院	122.750
3位	日体大桜華高等学校	116.800
4位	都立府中西高等学校	115.350
5位	大妻高等学校	112.200
6位	豊島岡女子高等学校	90.750

〈個人総合〉

1位	星野 莉央	八王子実践	48.500
2位	加藤 聖菜	日体大桜華	47.750
2位	秋山沙也香	都立府中西	47.150
4位	青山 小夏	都立駒場	48.350
5位	奥村 月咲	藤村女子	46.400
6位	澤野 杏	都立駒場	44.200

○秋季決勝大会

予選=11月23日(土) ・ 決勝=11月24日(日)

於 有明スポーツセンター体育館

全出場校を2分して予選を行い、その結果でそれぞれ6チーム及び個人8名を予選通過として、翌日の決勝戦で順位を決めるという2部大会の最大の大会となっている。関東大会や全国総体に出場した選手は出られないが、その一部を除き都内の高校女子選手としてはほとんどの選手が目指している大会となっている。

〈団体総合〉

1位	都立駒場高等学校	145.050
2位	藤村女子高等学校	139.950
3位	都立府中西高等学校	138.300
4位	富士見高等学校	124.800
5位	品川女子学院	123.000
6位	錦城高等学校	115.800

〈個人総合〉

1位	澤野 杏	都立駒場	50.550
2位	椎名 菜月	藤村女子	50.300
3位	田村 七紗	錦城	49.000
3位	佐藤 優和	都立府中西	49.000
5位	青山 小夏	都立駒場	48.350
6位	秋山沙也香	都立府中西	47.550

◎新体操の部

○秋季新人戦大会 11月10日(月)

於 駒場学園高等学校

次年度採用される種目の先取りをして行われる有効な大会となっています。また、3月に行われる全国高等学校選抜体操競技大会の予選としての位置づけにもなっています。

### 〈団体競技〉

1位	藤村女子高等学校	22.700
2位	日女体大附二階堂高等学校	21.650
3位	潤徳女子高等学校	19.650
4位	駒場学園高等学校	18.900
5位	文教学院大女子高等学校	12.250
6位	山崎学園富士見高等学校	8.700

### 〈個人総合〉

1位	朽木ユリア	安田学園	30.100
2位	片野 里菜	駒場学園	28.850
3位	岩崎 千紘	都立駒場	28.000
4位	高垣 聖菜	駒場学園	25.650
5位	山田 千尋	藤村女子	24.800
6位	永坂 柚奈	駒場学園	24.700

### ⑧ 関東大会

体操競技 千葉県総合スポーツセンター体育館  
5月31日(金)～6月2日(日)  
新体操 東金アリーナ

6月8日(金)～6月10日(日)

上記関東大会へは、今年度体操競技では3校と個人4名が出場し、新体操は4校と個人5名が出場した。結果として、体操の大智学園が団体総合優勝と大変健闘した。個人では大智学園の栗嶋姫子が総合優勝した。新体操では、団体競技駒場学園が2位に、潤徳女子が4位に、日女体大附二階堂は6位に入賞した。

### ⑨ 全国高等学校総合体育大会

体操競技 8月4日(土)～8月6日(月)  
於 鹿児島県体育館  
新体操 8月11日(土)～8月12日(日)  
於 鹿児島県体育館

今年度の全国総体では、前述した通り大智学園は、9年ぶりの団体総合優勝に輝いた。個人でも、山田千遥が跳馬とゆかで優勝を飾った。また、新体操での入賞は残念ながら無かった。

### ⑩ 全国選抜大会

新体操=3月18(水)～20日(金)  
於 グリーンアリーナ神戸  
体操競技=3月21日(土)～22日(日)  
於 グリーンアリーナ神戸

上記日程で全国高校選抜大会が行われることになっている。来年度につながる素晴らしい結果を期待している。

最後に、前述した訳だが、大会運営にとって体操器具のすべて揃った体育館は必須条件でありながら、東京都には体操器具の備わった公立の体育館は皆無である。その現状を何度となく各方面に訴え続けてきたが、改善されないまま時が過ぎてしまっており、

毎年その時々選手は待ってられないので、なんとか自分の学校で公式大会を行えるようにしてきたのである。自分のことを書くのは憚れるが、最後なので書き記す。私は幸いに私学の教員であり移動が無いので、私財を擲って数年をかけて体操競技の公式大会をやるように器具(器具・着地マット・着地補助マットなど)を購入し、大会を自分の学校で何とかやって来たが、逆に仇(結局大会をやれているではないか)となってしまったとも思っている。

この窮状は、あまり知られていないと思われ、この会報をご覧になった方は、東京都の体操競技環境の劣悪な状況を理解していただき、少しでも体操競技の発展のために、また『体操日本』の継続のために、ご理解ご協力をいただきたいと切に願っている次第である。



令和元年度 全国高校総体体操競技  
団体総合優勝 大智学園高等学校